

衣掛山

義経伝説に由来する中郷地区のシンボル

源義経の伝説が 山の名の由来に

敦賀市中郷地区にある衣掛山きぬかけやま。その名は源義経にまつわる伝説に由来します。鎌倉時代、源頼朝に追われた義経・弁慶一行は京から奥州へと逃れる道中、抜け道とした衣掛山で休息。松の枝に着物を掛けたと伝えられています。また、一行は役人の目を逃れるため、義経を匿かくまった美尾

敦賀市街地を一望できる衣掛山中腹地点。舞鶴若狭自動車道高架下(敦賀衣掛大橋)にあり、敦賀の街並みや敦賀半島、2024年開業の北陸新幹線敦賀駅や車両基地も眺められます。

谷家の娘の病氣祈禱きとうを名目に山に上がり、松の木に袈裟衣けさしえを掛けて三晩祈禱したという言い伝えも山の名の由来になったと言われています。

衣掛山の北側には、古墳時代後期(西暦600年前後)に作られたとされる古墳群が見つかっています。直径10〜13メートルの円墳には横穴式石室が備えられ、須恵器や鉄製の刀、耳環じかんなどが出土。この地が古くから栄えていたことを物語っています。

古くから交通の要所でもあった衣掛山は、現在も近畿・中京と北陸若狭を結ぶ重要な地点で、国道8号、舞鶴若狭自動車道が山麓を通ります。山の急勾配を登るために設けられたJR北陸本線上り線の鳩原ループ線は鉄道ファンにも知られています。

地域住民らで登山道を整備

「衣掛山は地元中郷小学校の校歌にも登場するなど、古くから地域住民に親しまれてきました」と話すのは、中郷地区区長会長の

竹中昭一さんと中郷地区社会福祉協議会会長の西口修さん。近年、この山に登ったことのない子どもが増えてきたことから、2003年、中郷地区の子ども会が中心となり、登山道を整備。その後、地域住民で結成された「衣掛山歩こう会」

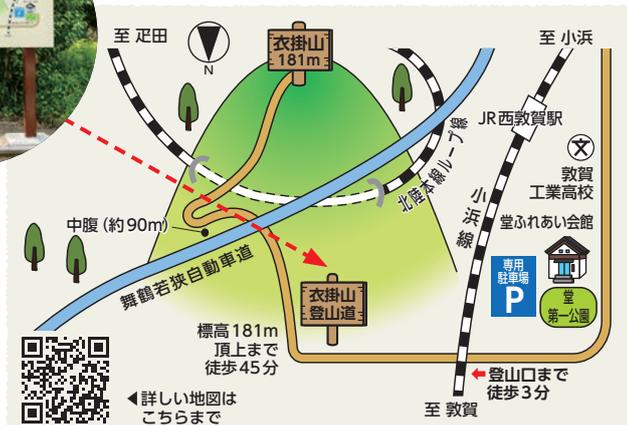
歴史イベントにも参加

(会長 小林豊一さん)が山の整備や清掃活動に取り組んできました。2013年から2023年にかけて登山道に階段を整備するほか、案内看板やパンフレットなども作成、認知度向上に努めています。

古くから交通の要所でもあった衣掛山は、現在も近畿・中京と北陸若狭を結ぶ重要な地点で、国道8号、舞鶴若狭自動車道が山麓を通ります。山の急勾配を登るために設けられたJR北陸本線上り線の鳩原ループ線は鉄道ファンにも知られています。



「古里のろし駅伝」では中郷地区の住民らの手で衣掛山から、「のろしのバトン」が繋がれました。



敦賀工業高校東側、JR小浜線の高架を潜った正面が登山道入り口です。2023年には案内看板が設置されました。

近年は戦国時代の浅井・朝倉ゆかりの史跡をのろしで結ぶ『古里のろし駅伝』に衣掛山も参加。岐阜県の関ヶ原古戦場跡を出発点に、敦賀を経由し福井と石川の県境にある刈安山かりやすやままでをのろしで結ぶ歴史イベントで、歴史や登山愛好家らの交流にもつなげています。

●この記事に関するお問い合わせ
中郷公民館
077012210192

発行所 ■ 日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 〒914-8585 敦賀市木崎65号20番地
0770 (23) 3021 ホームページ: <https://www.jaea.go.jp/04/turuga/> (2023年6月発行)